

第4回丹波市自治協議会の あり方懇話会概要

日時：平成30年11月20日
場所：ライフピアいちじま
会議の詳細は
丹波市ホームページ



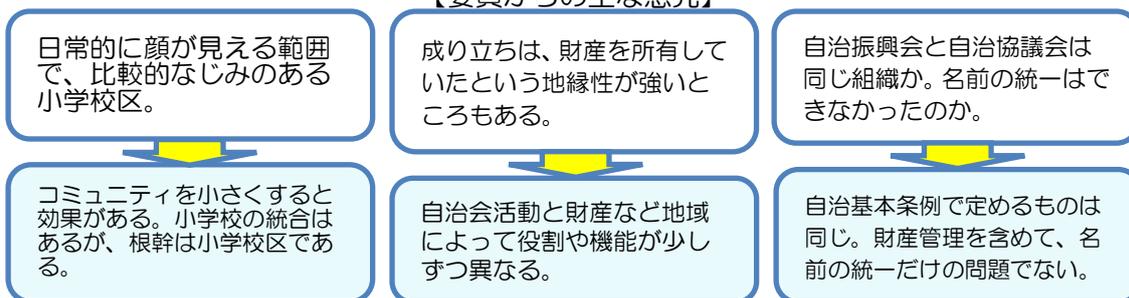
第4回懇話会では、自治協議会が何故作られたかを原点から考え、あるべき姿を経験に基づきながら再チェックし、運営の方法を見つける。そして、それを回す仕組みや仕掛けをともに考えることを基に、議論の視点を以下の(1)～(4)の4つとして議論いただきました。



(1) 自治協議会等制度を自治会とは別に新たに制度化した理由やどのような性格や目的、役割を求めた団体であったかの共通認識。

- 自治協議会の設立は、自治基本条例が制定されるよりも先に設立していたが、自治協議会の規定と地域コミュニティの規定については、運営を行うで正しいものと感じられている。
- 自治協議会の範囲としては、当初も行政と市民とが丁寧な確認作業の中、顔が見える範囲で住民も比較的なじみがあり、地域の核である小学校を中心とした範囲としていた。この範囲については、今後も大きな相違はないものである。

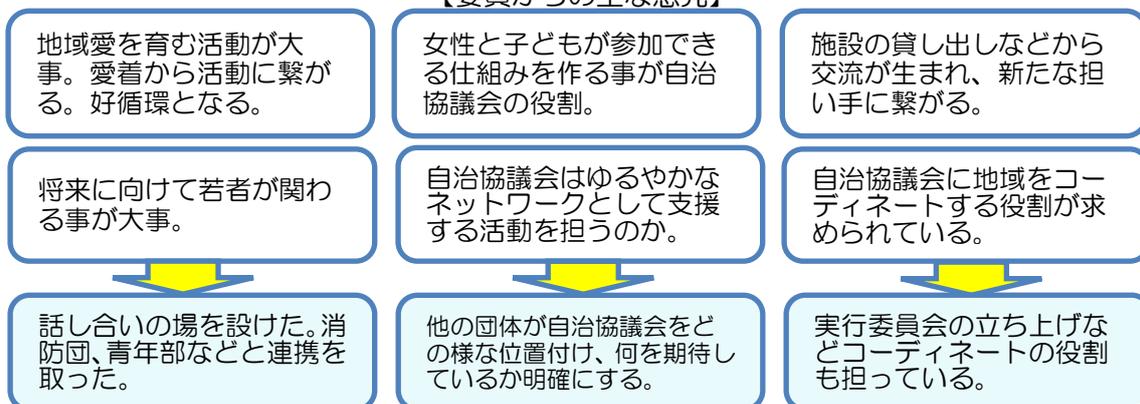
【委員からの主な意見】



(2) 設立当初の自治協議会の性格、目的は、現状の自治協議会と相違はあるか。

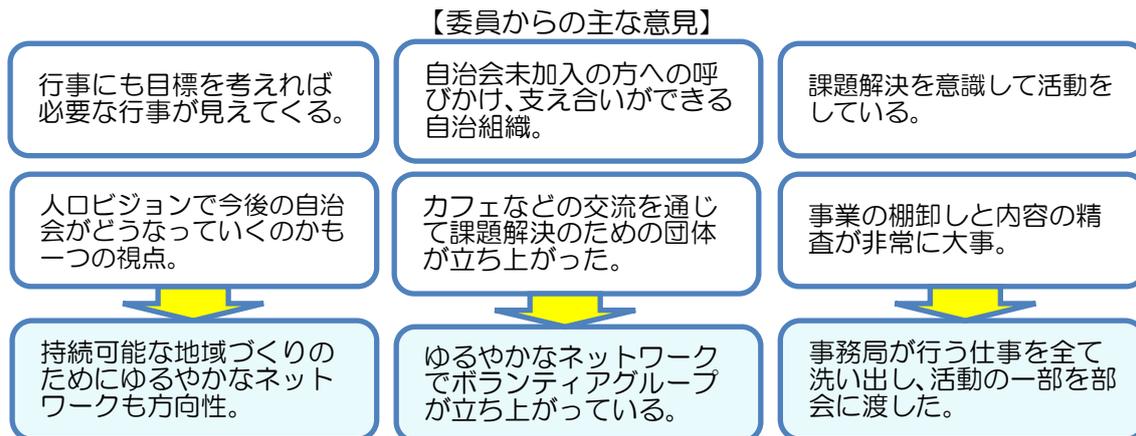
- 設立当初は、地域課題に取り組むとしながらも、決められた引き継ぎ行事をこなすことが主になっているところがある。
- 現状は、自治基本条例や地域づくり計画に基づいて取り組まれているが、担い手不足等により、必要な行事を見極める必要がある。行事にも目的や課題を明確に持たせることが大切。

【委員からの主な意見】



(3) 10、20年後の自治協議会の役割を検討するうえで、現状の目的、性格を変える必要はあるか。

- ・当初は組織の分類を考えたものはなく、相互に応援し合う「支援型」や、新しい活動も含めた「補完型」から「ゆるやかなネットワーク組織」を期待していたのでは。
- ・自治協議会は協議の場であることから「ゆるやかなネットワーク組織」として位置づけられるが、人口減少による担い手不足等の課題からその先には参画と協働が基礎にある「小規模多機能自治組織」へ向けた取り組みが期待される。
(重要事項であるため今後も議論を行う。)



(4) 10、20年後の自治協議会に向けて、今後の自治協議会の取り組みと行政の支援の仕方。

今後、議論をさらに深め、自治協議会の取り組みと行政の支援の仕方等を協議する。

○懇話会が考える「自治協議会のあり方について（方向性）」

市民が住み慣れた地域に安心して住み続けるためには、地域それぞれに求められる日常生活に必要なサービスを行政や事業者によるものだけでなく、住民自治によって住民相互に顔が見える距離感の身近な住民組織を目指す必要がある。

そのためには、「参画と協働の指針」に基づいた地域自治組織や市民活動支援等の施策や既存制度等を土台にして、自治基本条例に示される地域自治組織（考え方の一例として小規模多機能自治）をイメージしながら、それぞれの地域の特性を活かし、現状や課題、担い手などを踏まえた自治組織を形づくるための仕組みや仕掛けを考えていくことが重要である。

- ・自治とまちづくりが共存する組織運営（自治協議会は合議の場）
- ・住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる地域（参画と協働）
- ・住民の夢をつなぐ地域づくり（行政に影響されない地域運営）
- ・誰もが住みたい定住のまち（寛容性の高い地域）
- ・ネットワーク型の活動展開（持続可能な活動）

○今後の予定

第5回懇話会の後に、自治協議会の方向性として中間報告を行う予定です。

